

# 職工組合論(一)

河田嗣郎

## 序言

曩ニ同盟罷工ニ就イテ論ズルニ當リテ吾人ハ同盟罷工ノ有効ニ行ハルルヲ得ムガ爲メニモ、將又其ノ和解及ビ仲裁制度ノ能ク成立シ又其ガ効果ヲ表ハシ得ムガ爲メニモ、労働者ノ間ニ恒久的ナル結合團體ノ存スルコトヲ必要トスル旨ヲ述べ、其ノ理由ヲ明カニシテ置イタ。獨リ同盟罷工ノ如キ労働争議ト云ハズ、汎ク労働問題ナルモノハ、労働者ノ權利主張ニ基イテ起リ、從テ其ノ解決ハ資本家及ビ企業家階級タル雇主側ニ於ケル、引イテ又社會一般ニ於ケル、労働者權利ノ認識ニ由リテノミ行ハル可キモノデアアル。労働問題ハ決シテ雇主側ニ於ケル慈惠ヤ恩顧ニ由リテ解決サレ得可キモノデハナク、唯ダ彼等ノ側ニ於ケル正義ト智慮トニ由リテノミ解決サル可キモノデアアル<sup>1)</sup>。サレバ今労働者ガ其ノ社會的并ビニ經濟的地位ノ自覺ヨリシテ、地位ノ向上、境遇ノ改善ノ爲メニ大同團結ヲ爲シ、其ノ團結ヲシテ組織ノ整ヘル統制アル恒久的ノモノタラシメ、組合トシテ協助ノ精神ト實行的能力トヲ備ヘタルモノタラシムルコトハ、即チ之レ労働者ガ其ノ權利

1) J. Mitchell, Organized Labor, its Problems, Purpose and Ideals and the Present and Future of American Wage Earners, Preface, p. XI.

主張ヲ自發的ニ行ヒ、躬ヲ進ムデ所謂勞動問題ノ解決ニ資スル所以ナリト謂ハザル可ラズ。此ノ意味ニ於テ職工組合(ウシト、ユニオン)ナルモノハ、汎ク勞動問題ニ就キテ講究ヲ試ムルニ當リテハ、其全般ニ渉ル關係ニ於テ必ズヤ十分ニ研究セラレザル可ラザルモノデアアル。仍テ吾人ハ今茲ニ職工組合ナルモノニ就イテ其ノ主義トシ目的トスル所ヲ窺ヒテ職工組合ノ何物ナルカヲ知り、次ニ其ノ組織ヲ見又其ノ職能任務ヲ究ムルハ、應テ之レ勞動運動ニ就キテ其ノ原動力其ノ發顯ノ形式其ノ實際ノ効果ヲ各其ノ一端ニ於テ解得スルヲ得ル所以ナリト信ズル。勞動問題ノ意義ト廣クハ又社會問題ノ意義ハ之ニ由リテ解釋ノ鍵鑰ヲ供セラルルモノナリト信ズル。

## 一 職工組合ノ本質

元來資本ト勞動トハ必然的ニ敵對關係ニ在ルモノデハナイ。兩者ハ實ニ唇齒輔車ノ關係ヲ有シ、兩者相結ビ相助クルニ因リテ甫メテ生産ハ行ハレ得ルモノニシテ、兩者ハ何レモ他ノ一方ヲ缺キ得ルモノデナイ。從テ勞動者ガ其ノ團體内ニ於ケル各員ノ經濟事情ノ改善ト社會的地位ノ向上ノ爲メニスル自助的團結タル職工組合ハ、固ヨリ唯之レ勞動者ノ爲メニ勞動者ニ依リテ造ラレタルモノタルニ過ギズ、決シテ其ノ本來ノ面目ニ於テ他ノ或者ニ對敵シ他ノ或者ト戰ハンガ爲メニ存在スルモノデハナイ。<sup>2)</sup> 即チ或ル社會主義者等ノ之ヲ考フルガ如ク所謂階級戰爭(クラッセンカンプ)ノ爲メニ其ノ鬭爭(カンプ)

2) Mitchell, *ibid.* Preface, p. IX.

手段トシテ同盟罷工ノ存シ、其ノ又鬭争ヲ行フガ爲メノ團結トシテ職工組合ノ存スルモノデハナイ。職工組合ハ勞動階級ノ爲メニ存スルモノデハアルケレドモ、決シテ必然的ニ雇主タル資本主企業家ノ階級ニ敵對センガ爲メニ、即チ其ノ利益ヲ殺ギテ自己ノ利益トナシ、其ノ階級ヲ亡ボシテ自己ノ階級ガ之ニ代リテ企業界ヲ支配シ經濟上并ビニ政治上ニ於ケル支配ノ全權ヲ掌握セムガ爲メニ、存在スルモノデハナイノデアル。

職工組合ト雖モ固ヨリ屢々同盟罷工ヲ行ヒ又其他ノ手段ニ由リテ所謂階級的鬭争ヲ爲スコトハ之レ有ルケレドモ、ソハ唯ダ單ニ經濟及ビ社會ニ於ケル現制度ノ肯定ノ下ニ於テ勞動者階級ノ利益増長ノ爲メニ運動ノ一形式トシテ(換言スレバ目的成就ノ爲メニスル手段ノ一トシテ)之ヲ行フニ過ギス。決シテ鬭争ソレ自體ヲ目的トナシ、之ヲ以テ現制度打破ノ事業ソレ自體ナリト考フルモノデハナイ。

此意味ニ於テ職工組合ナルモノハ同ジク之レ勞動者ノ團體デアリ乍ラ彼ノさんぢかーナドト大ニ其ノ面目ヲ異ニスルモノデアル。彼ノさんぢかーニ至リテハ即チ之レ所謂さんぢかりずむノ爲メニ現制度ヲ打破シ、勞動者ノ爲メニ勞動者ノ社會及ビ經濟ヲ造リ、生産分配共ニ勞動者自ラ自己ノ主人トナリ支配者トナリ、多數ノさんぢかーハ又相聯盟シテ以テ一大組織ヲ成シ、勞動支配ノ天下ヲ造リ出サントスルモノデアル。從テさんぢかーノ主義トシ目的トシ其存在ノ理由トスル

所ハ全ク經濟及ビ社會ノ現制度ト相容レザルモノデアツテ、職工組合ノ立場トハ根本的ニ其ノ地盤ヲ異ニスル。從テ又さんぢかりすとノ行フ所ノ所謂直接行爲ナルモノハ之ヲ其ノ最モ代表的ナル總同盟罷工ニ就キテ見ルモ、吾人ガ本誌前號ニ論明シタルガ如ク、ソハ即チ之レ革命手段タルニ外ナラス。是ヲ以テ社會鬭爭ノ最後ノ一幕ト考ヘ鬭爭則チ之レ革命革命即チ之レ目的トナスモノデアアル。尤モ職工組合ノ中ニ在リテノ彼ノ所謂『新職工組合主義』New Trade Unionismニ屬スルモノニ至リテハ、其ノ包懷スル所ハさんぢかりすむト同旨義ニ出デ、新職工組合主義ト云フハ所詮さんぢかりすむト謂フノ別名タルニ過ギヌト觀得可キデアアルケレドモ、吾人ハ今此ノ新職工組合主義ナルモノニ就イテ論議ス可ク本篇ヲ草スルモノデハナイ。之ハ別ニ又論議ス可キデアツテ、茲ニハ唯ダ在來ノ英國流ノ職工組合ニ就イテ其ノ性質ヲ明カニセントスルノデアアルカラ、右ニ謂フ兩者ノ區別ハ到底之ヲ認メヌワケニハ參ラヌノデアアル。

此ノ區別ヨリスレバ職工組合トさんぢかりトハ尙ホ又其ノ組織ノ要素ヲ異ニスル。即チさんぢかりナルモノハ苟モ勞働者タル限りハ勞働者タル所以ヲ以テ之ニ加入スルヲ得、從テソハ廣ク勞働者ノ階級トシテノ一般ノ利益ヲ計ルヲ目的トシ、所謂階級的精神ヲ以テ立ツモノナルニ反シテ、職工組合ハ同一種類ノ職業ニ従事スル勞働者ノ團結タリ、從テ其ノ目的トスル利益増進ハ先ヅ以テ其ノ團結内ノ者ノ利益ニ存スルノミナラズ、ソガ據テ立ツ所ハ即チ之レ組合的精神ト名ケラル

可キモノデアル。<sup>3)</sup>

次ニ又職工組合ハンガ組合組織タルガ爲メニ中世ノ組合制度(Guild, Zunft)ト關係アルモノナルガ如クニ考ヘラルルケレドモ、兩者ハ全然別個ノモノデアル。然ルニ從來學者中ニハ職工組合ハ中世組合ノ發達シ其ガ形ヲ變ヘテ表ハレ來レルモノナリトスル者ガ少クナイ。此考ハぶれんたの教授ヤほうゑる氏ヤノ著書ニ負フ所少カラザルヤウデアル。然ルニ近時ニ至ツテハうゑつゝ氏夫妻ノ如キ職工組合ヲ以テ中世組合ノ後裔ナリトスルハ何等根據ナキコトナリト論ジテ居ル。<sup>4)</sup>吾人モ亦此ノ後説ニ贊同スルモノデアル。中世ノ組合ナルモノハ人モ知ルガ如ク自由市民ノ形造レル一種ノ自治體デアツテ、洵ニあつしゆれゝ教授ノ説ノ如ク寧ロ現時ノ産業組合ニ似タモノデアル。即チ中世ノ組合ハ勞働者ニ依リテ造ラレタルモノニ非ズシテ寧ロ其ノ屋主タリ企業家タル當時ノ「親方」ニ依リテ組織サレタルモノデアル。勞働者タル地位ニ在リシ當時ノ徒弟輩ハ唯之レニ從屬シタルモノナルニ外ナラス。即チ當時ノ獨立企業家タル親方ガ同一種類ノ職業内ニ於ケル利益、然カモ現今ノ意味ニ於テ之ヲ云ヘバ其ノ企業上ノ利益ヲ擁護シ増進セムガ爲メニ之ヲ造レルモノデ、其ノ漸次發達スルニ及ビテハ畜ニ經濟上ニ於テノミナラズ都市(多クハ自由都市)ノ一般自治行政ノ事ヲモ司リ、其ノ事務所タル所謂 Guild Hallニ於テ當今ノ市役所及ビ市參事會員市會議員ノ爲スガ如キ事務ヲモ管掌シタモノデアル。サレバ之ヲ當今ノ職工組合ト比較スレバ其ノ性質任

3) Lujo Brentano, Ueber Syndicalismus und Lohnminimum, München 1913, S. 14.

4) L. Brentano, History and Development of Guilds and the Origin of Trade Unions; Howell, Trade Unionism, New and Old. (quoted by Schloesser Trade Unionism, p. 1)

務等ニ於テ根本的ニ相違セルモノデアアル。唯ダ其ノ組織ガ自治的ナル自由團結タル點ニ於テ、又其ノ構成ノ形式ニ於テ相似タルモノアルニ過ギヌ。

中世ノ組合ト異リテ近世ノ職工組合ハ、所謂企業家ナルモノニ雇傭セラルル賃錢労働者ガ其ノ雇傭契約上ノ條件ヲ改善シ労働者トシテノ經濟的福利ヲ増進セムガ爲メニ造レルモノタルニ外ナラス。而シテ中世ノ組合制度ノ下ニ在リテハ當時ノ労働者タル地位ニ在リシ徒弟輩ハ漸次此ノ制度ノ認ムル所ニ依リ上ボリテ助手トナリ親方トナランガ爲メニ之ニ從屬スルモノナレドモ、現時ノ職工組合ニ於テハ労働者等ハ唯ダ労働者トシテ其ノ福利ノ増進ヲ計ルモノタルニ過ギズ、組合ノ制度ニ依リ又其力ニ依リテ進ムデ企業家タランガ爲メニ組合ヲ造レルモノデアハナイ。彼等ハ労働者タルガ故ニ労働者タル限りニ於テ組合ヲ造ルモノデアアル。而シテ又中世ノ組合ガ労働時間ヲ制限シ勞賃ニ關スル規律ヲ爲シタルコトハ、甚ダ現時ノ職工組合ノ爲ス所ニ似タレドモ、之レ亦兩者全然其ノ目的ヲ異ニスルモノデアアル。中世ノ組合ガ之等ノ事ヲ爲シタルハ必竟之レ組合員タル親方等ノ企業的利益ノ爲メニ之ヲ爲セルモノデアツテ、現時ノ職工組合ガ企業家タル雇主ニ對シテ労働者ノ利益ヲ擁護スルガ爲メニ之ヲ爲スノトハ、全然其ノ目的ヲ異ニシ又立場ヲ異ニスル次第デアアル。何レニシテモ名ハ同ジク組合ナリト雖モ現時ノ職工組合ナルモノハ中世ノ組合制度トハ根本的ニ其ノ存立ノ旨趣ヲ異ニシ從テ其ノ本質ヲ異ニスルモノナルコトヲ知ラナクテハナラ

スノデアル。

又現時ノ産業組合ナルモノモ名ハ同ジク組合デアルケレドモ、其ガ職工組合ト相同ジカラザルハ、中世ノ組合ギルドガ職工組合ト相同ジカラザルガ如クデアアル。之レハ又獨立ナル農業者ヤ小商人ヤ手工業者ノ類ガ其ノ産業上ノ利益ノ増進ト地位ノ擁護トノ爲メニ、又此等ノ者ヤ官公吏ノ類ヤ自由職業者ヤ乃至ハ勞働者等ガ其ノ消費經濟上ノ利便ノ爲メニ之ヲ造ルモノデアツテ、其ノ組織ノ外形ニ於テハ職工組合ニ似タルモノアレドモ、其ノ目的トスル所從テ其ノ存在ノ理由トスル所ニ至ツテハ全然相異リ、本質上兩者ハ何等ノ關係ヲ有セザルモノデアアル。其ノ異同ニ就キテハ此上多ク蛇足ヲ加フルノ必要ハアルマイ。

他ノ之ト相似タルモノトノ異同ハ先ツ右ノ如キ次第ナリトシテ、扱テ少シク進ムデ職工組合ナルモノノ本質ニ就キテ攷究ヲ試ムルデアラウ。既述ノ如ク職工組合ハ經濟ノ現組織ヲ肯定スルモノデアアルカラ、其ノ目的トスル所ハ必竟經濟及ビ社會ノ現制度ノ下ニ於テ組合ニ屬スル勞働者ノ勞働條件ヲ改善シ其ノ利得ヲ増シ其ノ幸福ヲ増進スルト言フコトニ存スル。惟フニ勞働者ガ其地位ヲ進メントスルニ當リテ若シ團結ノ力ニ由ラズシテ、銘々各自ニ勞働條件ヲ定メ個人バラニ雇主ト勞働契約ヲ結ブニ於テハ勞働者ハ常ニ不利益ナル條件ノ下ニ働カザル可ラザルコトトナルヲ避ケ難イデアラウ。蓋シ雇主ハ或勞働者ヲ雇入ルルヲ欲セザレバ他ノ者ヲ以テ之ニ替へ又更

ニ他ノ者ヲ以テ之ニ替フルコトガ出來ルニ反シテ、勞働者一人々々トシテハ、勞働ヲ賣ルカ賣ラザルカ雇ハルルカ雇ハレザルカノ二者其一ヲ選バザル可ラズ、然カモ勞働者ハ大抵皆之レ所謂無産者<sup>プロレタリア</sup>デアツテ、自己ノ神身ニ固有ナル能力ヲ賣ルニアラザレバ他ニ自己ノ身體ヲ離レテ存在スル生活手段ヲ有セズ、從テ勞働ヲ賣ル能ハザレバ餓死スルノ外ハナク、結局不利益ノ條件ト知リツツ其ノ條件ノ下ニ雇備サルルヲ肯ンズルノ外ナキモノタルガ故デアアル。即チ勞働者ニ取リテハ雇備セラルルト雇備セラレザルトハ臆テ之レ生存ノ大事實ニ觸レ來ル一大事タルガ故デアアル。然ルニ今勞働者ガ同一種類ノ職業ニ與ハル者ハ團結シテ一體ヲ爲シ、雇備ニ關スル條件詳言スレバ勞働時間、勞働上ノ設備、勞賃其他ノ事總テ皆團體ノ名ニ於テ集合的ニ雇主トノ間ニ之ヲ定メ、其ノ定メラレタル條件ハ團體内ノ勞働者各員ニ對シテ皆一樣ニ之ヲ適用ヲ見ルコトトナレバ、雇主ハ其ノ勞働契約ニ於テ勞働者團體ヲ満足セシムルニ足ル條件ヲ肯ンズルニアラザレバ自己ノ欲スルガ如キ熟練ナル勞働者ヲ雇入ルルヲ得ズ、極端ニ云へバ一人モ之ヲ雇入ルル能ハザルニ至リ契約掛引上ノ強味ハ今ヤ却ツテ勞働者側ニ存スルコトトナラザルヲ得ナイ。

斯ルガ故ニ即チ勞働者ハ勞働契約上ニ於ケル個人主義ヨリ來ル不利益ヲ避ケムガ爲メニ團結シテ組合ヲ造ルモノデアツテ、組合ハ實ニ勞働契約上ニ於テ集合的取引<sup>コレクティブ・トランザクション</sup>ヲ爲スヲ以テ其ノ任務トシ、之ニ因リテ勞働條件ノ改善ヲ計リ所屬勞働者ノ福利ヲ増進スルヲ以テ其ノ目的ト爲ス次第デア

ル。サレバ職工組合ハ徹頭徹尾労働市場ニ於ケル個人的取引ニ反對スルモノデアル。職工組合ハ常ニ此ノ個人主義の制度ヨリ來ル労働者ノ不利益ヲ除去シ、之ニ代フルニ多數ヲ結合シテ一體トナセル集合主義ノ制度ヲ以テセムガ爲メニ生レ來リ發達シ來レルモノト謂フコトガ出來ル<sup>7)</sup>。而シテ此ノ組合タル團體ガ一體トシテ雇主トノ間ニ労働時間、勞賃其他諸般ノ労働條件ヲ契約スルカラニハ、雇主タル者ハ若シ其ノ條件ニ從ツテ實際ニ労働者ヲ雇傭スルヲ好マザルニ於テハ、其團體ニ屬スル總テノ労働者ヲ雇傭セザルノ決心ヲ爲スヲ必要トスルコト右述ノ如クナルト同時ニ、雇主ガ其條件ニ從ツテ實際ニ雇傭ヲ爲スニ於テハ其ノ團體所屬ノ各労働者ハ苟モ雇傭サルル限りハ一人殘ラズ皆同様ニ其ノ有利ナル條件ノ適用ノ下ニ雇傭セラルルコトトナル。斯クテ勞賃、労働時間其他ノ労働條件ハ個人的取引ノ下ニ於ケルガ如ク、雇傭サルル労働者中ノ最モ劣等ナル者即チ所謂限界労働者ノ之ヲ肯ズル所ノモノニ於テ決定セラレ其レ以上ノ労働者モ亦等シク此ノ條件ニ甘ンゼザル可ラザルコトトナルノ不利益ヲ避クルヲ得ルノデアル。兎モ角職工組合ノ成立スルニ依リテ集合的ナル労働契約ノ行ハルルニ至ルコトハ、労働條件ヲシテ労働者ニ不利ナラシムルヲ得可キ最良ノ又最有効ノ自助的手段デアル。而シテ職工組合ハ主トシテ此ノ目的ト任務ト爲メニ存在スルモノナルヲ先ヅ忘レテハナラヌノデアル。

而シテ職工組合ガ其ノ目的トシ任務トスル所ニ從ツテ労働契約上ニ結合的取引<sup>ジョイントトランザクション</sup>ヲ爲スニ就イテ

7) Mitchell, *ibid.* p. 3

ハ、ソハ必ズヤ労働時間ニ關シテハ其ノ最長時間ヲ約定シ其レ以上ノ時間ニ涉リテハ如何ナル事情アルモ組合所屬労働者ノ何人ニモ労働ヲ爲サシメザルコトヲ約スルト同時ニ、勞賃ニ關シテハ最低勞賃ヲ定メ其ノ以下ノ勞賃ヲ以テシテハ如何ナル事情ノ下ニ於テモ組合所屬労働者ノ何人ヲモ使役セシメザルコトトセナケレバナラス。併シ此ノ最長時間ノ制限ト最低勞賃ノ標準トヲ定ムルハ各労働者ノ労働時間及ビ勞賃ハ皆平等一樣ナラザル可ラスト云フニハアラスシテ、労働時間ハ之ヲ一樣ニスルトモ勞賃ニ關シテハ同一樣ナル労働ニ對シテハ同一額ノ勞賃ノ支拂ハレザル可ラスト云フニ過ギヌ。<sup>8)</sup> ツマリ之ニ由リテ一方ニハ過長ノ時間ニ涉ル労働ノ行ハルヲ防止シ又餘リニ低廉ナル勞賃ノ下ニ労働契約ノ取結バルルヲ防グト同時ニ、他方ニ於テハ個人的契約ニヨリ勞賃カ労働ノ種類若クハ労働ノ能否ニ應ジテ正當ニ支拂ハルルコトナクシテ、唯ダ個々人ノ契約締結ノ巧拙及ビ其ノ時々ニ特有ナル事情特ニ労働ノ需給状態ニ由リテ不公平ナル勞賃支拂ノ行ハルヲ避ケントスルモノデアアル。

斯クテ又職工組合ハ集合的契約ニ依リテ雇主トノ間ニ労働條件ヲ約定スル以上ハ、雇主ガ組合トノ契約ニ成レル最長労働時間以上ニ労働ヲ爲サシメンガ爲メニ、若クハ又最低勞賃標準以下ノ勞賃ニテ労働ヲ爲サシメンガ爲メニ、若クハ又少クトモ此ノ労働時間中勞賃ニ關スル契約ニ對シテ例外ヲ造テシテガ爲メニ、組合所屬以外ノ労働者即チ所謂 Non-Unionist ヲ雇備スルヲ防止スル

8) Mitchell, *ibid.* pp. 4-5

モノデアル。蓋シ之ヲ防止セザルニ於テハ、折角ノ有利ナル集合契約ハ之ガ爲メニ破ラレ契約ハ又元ノ個人的ナル契約制ニ返リ、労働條件改善ノ爲メニスル折角ノ努力ハ水泡ニ歸シ、職工組合ハ其ノ存在ノ意義ヲ失フカラデアル。

次ニハ又労働者ハ已ニ職工組合主義ニ由リテ労働契約締結ニ關シ集合的ニ之ヲ行フ權利ヲ有スルカラニハ、彼等ハ又彼等ノ欲スル人々ニ由リテ其ノ利益ヲ代表セシムルノ權利ヲ有スルモノトセナケレバナラス。蓋シ此ノ代表權ノ認メラルルニアラザレバ集合的契約ハ實行サルヲ得可カラズ、又實効ヲ上ゲ得ザルモノナルガ故デアル。按ズルニ労働者ガ其ノ労働ヲ賣リテ人ニ雇傭セラルルト否トハ固ヨリ之レ労働者自身ノ自由意思ニ出デザル可ラズ。奴隸制度ノ下ニ於テハイザラズ、苟モ現今ノ人格自由ノ一般的ニ認メラレタル時代ニ在リテハ、労働者ハ其ノ労働ヲ賣ルヤ否ヤニ就キテ自ラ之ヲ選擇スルノ自由ヲ有シ、其ノ選擇ハ労働者各自ノ權利ニ屬スル。而シテソガ己ニ労働者各自ノ權利ニ屬スル限リハ、労働者ハ又其ノ労働ヲ賣ルニ就キ其ノ契約ヲ各人個別的ニ爲スト之ヲ多數者集合的ニ爲ストハ固ヨリ又各自ノ自由ニ選ブ所ニ任サル可キ筈デアル。即チ其ノ契約ヲ個別的ニ爲スト集合的ニ爲ストハ所謂契約自由ノ原則ニ基キ各人ノ權利タルヤ勿論デアル。蓋シ此事ハ何等公ノ秩序善良ノ風俗ニ戻ルモノデナイカラ。而シテ今労働者ガ集合的ニ労働契約ヲ爲スノ權利ヲ有スルモノナルコト勿論ノ義デアルトスルナラバ、其ノ集合契約タル

ヤ多人數ノ者ガ皆悉ク其ノ契約締結ノ實際ニ當ルノ必要ハナク又其ガ不可能ナル場合モ少クナイノデアルカラ、其ノ契約ハ或ル少數ナル代表者ニ依リテ行ハル可キモノ、行ハレテモ差支ナキモノデアル。契約ハ代理人ヲ立テテ委任ニ依リテ行ハレ得可キコト固ヨリ法律ノ之ヲ認ムル所デアツテ、他人ニ委任シテ契約ヲ爲シ得ルコトハ又各人ノ權利ニ屬スル。

斯ク勞働契約ガ集合的ニ行ハルルヲ得、又ソガ代理ニ依リテ行ハルルヲ得ルコトハ、即チ之レ職工組合ガ組合利益ノ代表ヲ認メ、其ノ領袖タル者ノ指導權ヲ認メ、之ニ依リテ組合ナルモノガ組織的ニ秩序アル行動ヲ爲シ又有効ナル契約ヲ爲シ、漸次ニ勞働者ノ地位向上ト福利増進トヲ爲シ得ル所以デアル。

凡テ右等ノ如キ理由ニ依リ右等ノ如キ目的ノ爲メニ職工組合ナルモノハ發生シ發達セルモノデアアル。要スルニ之レ勞働者ガ經濟ノ現組織ノ下ニ於テ其ノ權利主張ノ爲メニ自助的手段トシテ造リ出セルモノデアアル。從テソガ常ニ平和的ニシテ權利主張ノ爲メニ存在シ、革命的ナラズ力ニ依ル闘争手段タラザルコトハ、十分ニ好ク了解サレナケレバナラヌ所デアアル。

次ニ進ムデ少シク勞働組合ナルモノニ對スル學界及ビ一般社會ノ態度ニ就キテ攷フルニ、職工組合ガ是認セラルルニ至リタルハ極メテ新シキコトニ屬シ、從來ハ久シキ間否定的態度ヲ以テ迎ヘラレタモノデアアル。即チ前世紀ノ初葉ヨリシテ最近二三十年以前ニ至ル迄ハ經濟學者ハ學理上

ヨリシテ職工組合存立ノ理由ノ立チ得ザルヲ主張シ、一般社會特ニ中産階級以上ノモノハ、一ニハ學理ニ附和シ一ニハ利害及ビ感情上ヨリシテ職工組合ニ對シテ敵意ヲ藏シ、然ラザレバ極メテ冷淡ナル態度ヲ持シタモノデアアル。

職工組合存立ノ理由ヲ學理的ニ否定スルモノハ彼ノ勞賃基金說 Theory of the Wage Fund デアル。即チ勞賃基金說ニ從ヘバ、資本ノ中ニ在リテ勞賃ニ充テラル可キモノハ或ル時期ニ於テ常ニ一定サレタルモノデアツテ、此ノ一定サレタル額ヲバ勞働者ガ分割所得スル次第デアルカラ、ツマリ各勞働者ノ得ル所ノ勞賃額ハ此ノ一定額ヲ勞働者ノ頭數ニ依リテ除シタルモノト見ル可キデアル。固ヨリ各勞働者ノ獲ル所ハ平均的ナル平等ノ額デハナイガ、兎モ角勞賃ニ充テラルル一定ノ資本額ヲバ分子トナシ勞働者ノ數ヲ分母トナスニ由リテ勞賃ハ定マル可キモノトセラルル。元來資本ナルモノハ過去ノ生産ノ貯積サレタルモノナレバ、其額ハ或ル一時期ニ就キテ之ヲ見レバ必ズヤ一定額ヲ有セザル可ラズ、然ルニ此ノ資本ナルモノハ更ニ又再ビ生産ニ使用セラル可キモノナルガ故ニ、其中ノ一部分ハ原料及ビ機械等ニ用ヒラレ他ノ一部分ハ勞賃トシテ用ヒラル可キデアアル。サレバ勞賃トナル可キ部分ノ大サハ原料及ビ機械等ニ用ヒラル部分ヲバ全資本額中ヨリ控除シタル部分タルニ外ナラズシテ、兎モ角或ル一定ノ時期ニ就キテ之ヲ觀レバ其額ハ亦必ズヤ一定サレタルモノタラザル可ラズ。其ノ一定サレタル額タルコトハ爭フ事ノ出來ナイ事實デア

ル。然ルニ又翻テ之ヲ勞働者ノ側ニ就テキ觀レバ、或ル時期ニ於テ生産ニ從事スル勞働者ノ數モ亦必ズヤ一定數ヲ以テ之ヲ表ハスコトノ出來ルモノデアリ、其ノ一定サレタルコトハ之レ亦爭フ可ラザル事實デアル。然ラバ即チ勞賃ナルモノハ共ニ一定サレタル此兩者ノ關係ニヨリ決定サルルモノタル結果トシテ或時期ニ於テハ必ズヤ又事實的ニ一定サレタルモノデナクテハナラヌ。

即チ勞賃ノ決定ハ右ノ如ク事實的ニ定マルモノナレバ、此ノ事實的關係ノ動カザル限り、勞賃ハ之ヲ人爲的ニ増減セシメ得可キモノデナイ。從テ今勞働者ガ如何ニ組合ヲ結び其ノ團結ヲ固クシテ勞賃ノ引上ヲ嚮策スルトモ其ハ必竟無意義タラザルヲ得ナイ。縱令同盟罷工ヲ起シテ之ヲ強要スルトモ、事實的ニ定マルル從テ理論ノ當然ナルモノハ之ヲ奈何トモシ得可キモノデナイ。此ノ意味ニ於テ職工組合ハ勞賃引上ヲ目的トスル限り理論的ニ其ノ存在ノ理由ヲ有テ得ザルモノト謂ハナケレバナラス。

サレバ今若シ勞賃ヲ増加セシメント欲スレバ、其道ハ右ニ述ベタル勞賃決定要素タル事實的基礎ヲ變更セシムルノ外ニ存スルヲ得ナイ。即チ一ニハ資本ノ中ニ於ケル勞賃ニ充テラル可キ部分ヲ大ナラシムルコトト、他ニハ之ヲ分割所得スル勞働者ノ數ヲ減ズルコトト之デアル。此ノ理論的ニ可能ナル勞賃増加策ニ出デザル限り、職工組合ノ目的トシ存在ノ理由トスル所ハ理論ノ當然タル法則ニ逆フモノデアツテ、其ノ存在ノ理由ハ立チ得ナイノデアル。今假リニ職工組合ノ力ニ

依リテ資本全額中ニ於ケル勞賃ニ充テラル可キ部分ガ多大ニセラレ得タリトセンニ、此ノ部分ノ大ニセラルルコトハ則チ他ノ原料及ビ機械等ニ充テラル可キ部分ノ縮小セラルルコトヲ意味スルヤ勿論デアル。然ルニ元來生産ナルモノハ原料ノ豐富ニシテ機械ノ十分ニ使用サルルニ由リテ其額ヲ増シ一般ニ生産業務ノ榮ヘ行クヲ得可キモノタルヤ言フ俟タザル所ナレバ、今之ガ獲得使用ニ充テラル可キ部分ノ縮小サルルコトハ所詮之レ生産ヲシテ痿縮セシムル結果ヲ齎サザルヲ得ナイ。而シテ生産痿縮スレバ勞働ニ對スル需要ハ從ツテ減少シ、勞働者ハ爲メニ却ツテ困難ニ陥ラザルヲ得ナイノデアル。即チ觀方ヲ變ヘテ之ヲ言ヘバ、勞賃所得ヲバ斯ノ如クニシテ増加セシムルハ取モ直サズ普通ニ所謂資本ナルモノニ對スル利得ホトフツトヲ減少セシムル所以デアツテ、然カモ資本ノ利得ノ減少スレバ資本主タルモノハ其ノ生産的活動ノ刺激ヲ失ヒ、又資本ヲ造リ出サンガ爲メニ所得ヲ貯蓄スルノ樂ミヲ失フコトトナリ、從テ資本ノ増加ハ衰ヘザルヲ得ヌ。資本ノ増加衰フレバ勞賃ハ之ヲ増加セントスルモ得可カラザル次第デアル。サレバ今普通ニ所謂資本ナルモノノ負擔ニ於テ勞賃ヲ増加セントスルノ企ハ、必竟ズルニ勞働者ノ自殺的行動ト謂ハナケレバナラス。斯クテ職工組合ノ存立ス可キ理論上ノ根據ハ存立シ得ナイノデアアル。

次ニ又勞賃増加ノ第二ノ方法タル勞働人口ノ減少ト云フ事ニ就キテ致フルモ、之レ亦實ニ學理ニ戻ルモノタラザルヲ得ズトセラルル。蓋シ當時ノ學說ニ從ヘバ、有名ナルなるさすノ學說ニ由

リ人口ハ自然的ニ増加シテ止ムコトナク其ノ増加ノ率タルヤ又頗ル急速ナルモノデアアル。從テ今勞働人口ヲ減ゼンガ爲メニハ必ズヤ此ノ人口増加ノ自然的ナル勢ヲ殺グニ足ル可キ人爲的制限ヲ行ハナケレバナラス。然ルニ其ハ甚ダ實行シ難ク又道德的ニモ非難サル可キモノナレバ、此ノ方法モ亦自然ノ法則ニ戻ル又當時ノ學說ニ矛盾スルモノト考ヘラレタルヤ明カデアアル。茲ニ於テカ職工組合ノ力ニ依リテ勞働人員ヲ減少スルノ道ハタダ一方ニ於テ職工組合ニ依リテ勞働供給ヲ獨占シ乍ラ他方ニ於テハ組合ニ加入セシムル人員ヲ制限シ以テ勞働ノ供給減ヲ行フノ外ニ存セナイ譯デアアル。然レドモ斯ク獨占ニ依リテ勞賃ヲ高クスルニ於テハ生産品ノ價格ハ之ニ應ジテ高マリ來ラザルヲ得ズ、然カモ貨物ノ價格騰貴スレバ之ニ對スル需要ハ減少シ從テ其ノ生産減ジ、資本主ノ利得ノ減ジ資本増加ノ減ジ、結局又勞賃ハ増加ノ勢ヲ續クルヲ得ザルコトトナルヲ免レヌ。斯クテハ此道モ亦勞働者ニ取リテハ自殺的結果ヲ齎スコトトナラザルヲ得ザル次第デアアル。

斯ク觀來レバ職工組合ナルモノノ存在ノ理由トスル所ハ理論的ニぢれんまニ陥レルモノデアツテ、之ヲ救フノ道ハナイ。サレバ之ヲ實際ニ照シ觀テ勞働者ノ個々人中ニハ經濟的ニ其ノ地位ヲ上ボスヲ得ル者ガアルケレドモ、之ヲ勞働者全體トシテ觀察スレバ、其ノ經濟的地位特ニ勞賃ハ事實的ニ豫定セラレ (predetermined) テ居リ、之ヲ人爲的ニ運動ニ由リテ高メ得可キモノデハナイノデアアル。之ヲ欲スルハ即チ理論ニ逆フモノデアアル。<sup>10)</sup>

10) 以上 S. a. B. Webb, Industrial Democracy, 1914, pp. 603-618 参照

凡テ右ノ如キハ勞賃基金說ニ依リ前世紀ノ大半ヲ通ジテ職工組合ナルモノノ學理的ニ否認サレタル理論ノ概要デアツテ、勞賃基金說ガ割合ニ長ク其ノ命脈ヲ維持シ得タルダケソレダケ職工組合ニ對スル學界ノ態度モ長ク變ラザルモノデアツタ。而シテ中等階級及ビ其ノ以上ノ者モ依然トシテ永ク職工組合ニ對シテ快カラヌ態度ヲ維持シテ來タノデアル。

然ルニ最近二三十年來ニ於テハ經濟上ニ於ケル學理ノ著シク進歩シ、勞賃基金說ノ到底誤謬タラザルヲ得ズシテ、勞賃ノ如キガ豫メ一定サレタル資金額中ヨリ支拂ハルト爲スコトノ誤レルノ明カニセラレ、新タナル生産ノ結果ニ依リテ常ニ新タニ其ノ財源ノ造ラレ行クモノニテ、從テ勞賃ヲ増スコトガ決シテ直チニ資本利得ヲ減殺スル所以ナラズ、從テ又生産ヲ痙縮セシムル所以ナラザルコトノ論明セラレタルガ爲メニ、職工組合ニ對スル學界ノ態度ハ俄カニ變ツテ來タノデアル。斯クシテ今ヤ一般ニ學理ノ上ヨリシテ職工組合ノ存立ノ理由ヲ否定セムトスル者ハナク、寧ロ其ノ主張其ノ目的ハ學理的ニ正當ナル理由ヲ有シ、少クトモ其ノ存立ノ理由トスル所ガ學理ニ矛盾スルモノニアラザルコトハ一般ニ認メラルル所トナツタ。而シテ又他方ニ在リテハ實際上ニ於テ職工組合ノ行フ所ガ必ズシモ社會及ビ經濟ノ秩序ヲ紊亂セズ、合理的ニ又平和的ニタダ權利主張トシテ正當ナル道ヲ歩ミ正當ナル主張ヲ貫カントスルモノニ外ナラズ、從テ其ノ爲ス所ハ必ズシモ資本主ヤ企業家ヤ乃至ハ所謂中等階級ナルモノノ利益ト衝突スルモノニアラザルコトノ社

會一般ニ認識セラルルニ至ツタガ爲メニ、今ヤ職工組合ナルモノハ學界ニ於テモ一般社會ニ於テモ、其ノ存立ノ理由ノ肯定セラレ、又其ノ行動ニ就テ廣ク同情ヲ贏テ得ルニ至ツタ。然レドモ昔日ノ情力ハ今日ニ至ルモ多少ハ尙ホ之ヲ見ルコトガ出來ルノデアツテ、社會ノ或方面ニ於テハ依然トシテ尙ホ職工組合ナルモノヲ白眼以テ視ツツアル者ガ少クナイ。併シ斯ノ如キハ何レノ制度組織ニ就イテモ又何レノ時代ニ於テモ免レ能ハザル所ナレバ、今ヤ一般的ニ職工組合ナルモノノ地位ノ認容セラルルニ至ツタコトダケハ之ヲ言ヒテ誤ナキ所デアアル。而シテ已ニ一ト度其ノ存立ノ根本理由ニ對スル學界及ビ一般社會ノ否定的態度ノ更マリ來リテ、兎モ角モ之ヲ肯定スルノ風廣ク行ハルルコトナレバ、職工組合ハ又其ノ實際上ノ活動ニ於テモ益々合理的ニ又合法的ニ之ヲ爲スヲ得ルニ至ルト同時ニ、其ノ實際的施設ノ効果モ亦益々多大トナリ得ル次第デアアル。然カモ此事ハ循環的ニ又原因トナリテ學界及ビ一般社會ハ、職工組合ノ益々合法的ニ又益々有効ニ活動スルヲ見テ更ニ一層之ニ對スル從來ノ否認的態度ヲ改ムルニ至ルコトナルノデアアル。要スルニ之ガ爲メニ職工組合ハ近來大ニ發達スルヲ得ルニ至ツタ。尙ホ職工組合ノ地位ノ一般的ニ容認セラルルニ至ツタ詳細ナル理由ニ關シテハ、以下職工組合ノ組織職能等ニ就キテ詳論スル所ニ照シ致フレバ自ラ明瞭トナルデアラウ。(以下續出)